

環境科学同窓会通信 第25号

Environmental Science Alumni Association Newsletter Vol. 25

目次/Content

1. 「環境科学院での学びを糧に」
佐々木 智規（気象庁 新千歳航空測候所 技術専門官）
2. 「環境科学院時代の貴重な経験」
鈴木 健太（千葉工業大学 地球学研究センター 研究員(嘱託)）

環境科学院での学びを糧に

佐々木 智規（2010 年度環境起学専攻修士課程修了 気象庁新千歳航空測候所技術専門官）

私は 2010 年度に環境起学専攻（統合コース）を修了しました。山崎孝治教授（当時）の研究室にお世話になり、修士論文の作成にあたっては主に佐藤友徳特任助教（当時、現 准教授）に指導いただいて、北海道の開拓による土地利用変化が気候にもたらした影響について領域気候モデルを用いた数値実験・解析調査を行わせていただきました。

修了後の 2011 年 4 月に北海道庁へ入庁、技官（水産）として 4 年間の勤務を経たのち、2015 年 4 月に気象庁へ入庁し現在に至ります。気象庁では、北海道内の気象官署で天気予報・観測をはじめ各種観測機器の維持管理・整備に関わる業務を担当しながら、予測精度向上に向けた現象解析などの調査業務にも関わる機会をいただき、修士課程で学んだ知識・経験や調査研究の“イロハ”が存分に活かしていると感じます（“イロハ”もままならない私を根気強くご指導いただいた先生方・諸先輩方には本当に感謝の念に堪えません）。また、環境科学院の中でも環境起学専攻は特に多様な背景を持つ学生が集まり、独特の文化を形成している印象があり、様々な分野の個性的な講師・先輩・仲間達から得られる多くの知識・経験は一社会人として様々な課題に取り組むにあたり大いに役立っています（在籍時にはついつい自分の専門分野にこだわり、広い視野を持つことができなかつたために、せっかくの貴重な機会を最大限活用できなかつたことを今更ながら大変後悔しております）。

修了から 10 余年、思い描いた将来とは少々違いますが、転職や結婚・2 児を授かるなど月並みながら幾度かの転機を経た今、際立った成果や輝かしいキャリアはなくとも日々を懸命に生きる最大の動機は、環境科学院で得た学び・経験を無駄にすることなく一社会人として貢献したい思いなのではないかと感じています。社会情勢の変化が大きく職場環境の変化のスピードも上がる中、数年先に自分が何をしているのかわかりませんが、ここで得た様々なものを糧に、そして“これまでの歩みはどれも決して無駄にはならない”（進路に悩む私へ恩師がかけてくれた言葉）ことを信じ、これからも精進していきます。

環境科学院時代の貴重な経験

鈴木健太

(2020年3月地球圏科学専攻博士後期課程修了 千葉工業大学 地球学研究センター 研究員(嘱託))

私は、理学部地球科学科(現地球惑星科学科)の学部4年生時から博士後期課程修了まで、地球圏科学専攻の山本正伸先生の下で、北極海の海底堆積物コアを用いた過去数万年間の北米氷床の崩壊イベントを復元する研究を行わせていただきました。在学中は、大気海洋化学・環境変遷学コース(現生物地球化学コース)の先生方や所属していた皆様には大変お世話になりました。

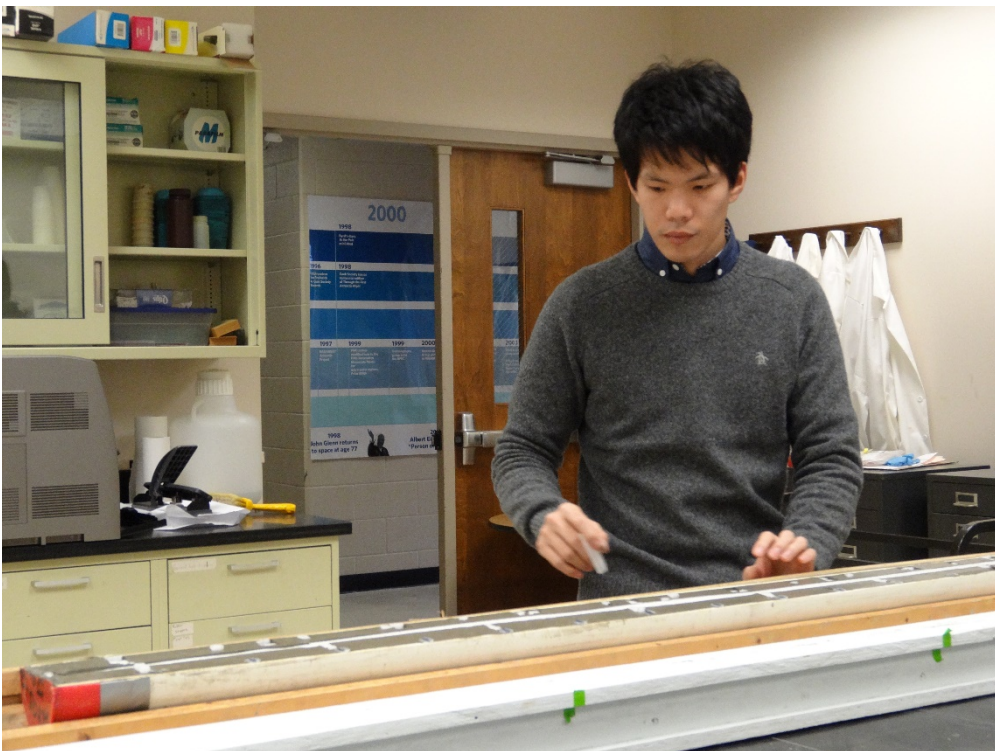
院生時代には国内外の様々な場所に行き、調査や研究をさせていただきました。研究航海としては、IODP(国際深海科学掘削計画)の第355次航(Arabian Sea Monsoon)に堆積学者として参加し主に岩相記載を担当し、韓国極地研究所の砕氷調査船ARAONの北極海航海に参加して実際に北極海で堆積物コアを採取しました。学生のうちからこのような国際的な研究航海に参加し、様々な国の研究者と一緒に調査や分析をできる機会を得ることが出来、たくさんの友人を作ることが出来たのは非常に有意義で貴重な経験となりました。また、こういったことが縁となり、北極海航海でお世話になったオハイオ州立大学のLeonid Polyak博士のところに、ArCS(北極域研究推進プロジェクト)の若手研究者海外派遣事業という、長期間滞在して研究を行う機会も得られました。

2017年には、環境科学同窓会の海外学会発表支援プログラムの支援を受け、米国のニューオーリンズで行われた米国地球物理学連合秋季大会AGU Fall Meeting 2017でポスター発表をさせていただきました。この場を借りて環境科学院同窓会の皆様にはもう一度感謝申し上げます。

現在は、主にトルコの遺跡を対象として過去の遺跡内での人間活動の変化に環境変動が影響を与えたのかを理解するために、遺跡の発掘調査に参加しながら遺跡内の試料を採取したり、陸上や湖上で堆積物の掘削を行い、研究を行っています。



北極海航海で遭遇したホッキョクグマ



オハイオ州立大学で北極海堆積物コアのサブサンプリング

発行：環境科学同窓会事務局

〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目

北海道大学 大学院地球環境科学研究院内

Fax: 011-706-4867

e-mail: home-coming@ees.hokudai.ac.jp

Issuer: Environmental Science Alumni Association Office

Graduate School of Environmental Science, Hokkaido

University

Kita 10 Nishi 5, Kita-ku, Sapporo 060-0810, Japan

Fax: 011-706-4867

E-mail: home-coming@ees.hokudai.ac.jp

バックナンバーは同窓会HPでご覧に頂けます。

www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison.html (日本語)

You can visit our back issues page here:

www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison-e.html (English)